

塩原温泉の歴史

塩原温泉の歴史は、西暦 810 年頃に元湯地区で温泉が発見されたことから始まった。元湯地区は地図の左端にある集落である。一部の記述によると、発見したのは狩人とされているが、他の記述によると、旅の僧によるものとされている。温泉が山の奥深くにあり、そこまで辿り着くのが困難であったことから、19 世紀後半に鉄道が敷かれるまで人々が頻繁に訪れることはなかった。

1884 年、塩原に新しい道路が開通し、1886 年には鉄道が西那須野駅まで延びた。駅から塩原温泉郷までの 14km の道のりを観光客を運ぶのに、トテ馬車と呼ばれる馬車が使用された。その後、車やバスがより一般的になると、馬車は温泉から他の観光スポットへ観光客が行き来するのに利用され、大人気となった。

特に 18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて、塩原温泉郷は多くの文学者にとって人気の旅行先であった。夏目漱石（1867～1916 年）や与謝野晶子（1878～1942 年）のような人々は、工業化された都市から逃れ、寛いで執筆に集中するために塩原を訪れた。